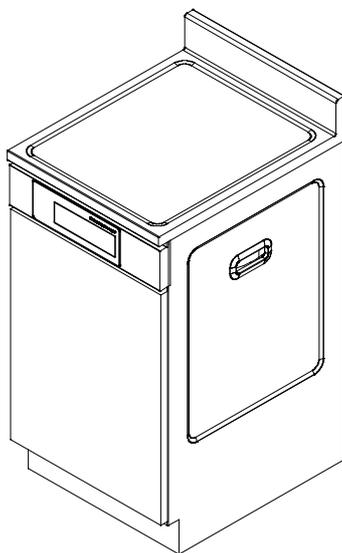


工事要領・取扱説明書

製品名：調理台型給湯ユニット

型 式：ES-50,80DWUB-LC(1)/-M



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置・ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、本書をご使用になる方に必ずお渡しください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。
（この工事要領・取扱説明書に記載されている事項を守らないで発生した事故について、
弊社は責任を負いません。）

株式会社 **日本イトミック**

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル

TEL:03 (3621) 2121 (大代表) FAX:03 (3621) 2130

フロント課（修理依頼承り先）

TEL:03 (3621) 2161(代表) FAX:03 (3621) 2163

もくじ

共通項目	2
安全上のご注意	3
ES-DWUBシリーズについて	5
各部名称と機能	6
仕様一覧	7
工事要領	8
施工前にご確認ください	9
1. 製品の確認	9
2. 設置場所の確認	10
施工する	11
1. 設置工事	11
2. 配管工事	12
3. 電気工事	13
4. 施工後の確認	13
試運転を行う	14
1. 給湯器に給水する	14
2. 試運転を行う	17
3. 混合給湯口からの湯温を調節する	19
4. 試運転後の確認	19
5. 試運転後に必ず行ってください	19
取扱説明	20
使用方法	21
1. 使用前の準備と確認	22
2. 運転する	22
3. 出湯する	24
長期間使用しないときは(排水の方法)	25
お手入れの方法	28
保守点検項目を実施の目安	28
外装のお手入れ	29
こんなときは	30
アフターサービス	32
修理をご依頼の際には	32
消耗品の定期交換について	32

共通項目

安全上のご注意

本書には、お客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただく事項を記載しました。設置の前に、本書を必ずお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。



△の記号は、注意する必要がある事項を示しています。
△の中に具体的な注意内容が描かれています。
(左図の場合は高温注意を意味します。)



⊘の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
⊘の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は分解禁止を意味します。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜くこと、という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

 警告	
	アース(D種接地)工事を確認してください。 アース工事がされないと機器の故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
	電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、必ず動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電のときに感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の±10%以内でお使いください。 火災の原因になります。
	本体内部を点検する場合には、必ず電源を切ってください。 感電のおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には、製品を設置しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると、故障や感電の原因となります。
	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
	設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉・天板を開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災や感電、やけど、漏水、ケガの原因となります。

⚠警告	
	逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	濡れた手で操作しないでください。 感電のおそれがあります。

⚠注意	
	床面に防水・排水処置を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。
	給湯器の運転質量に十分耐えられる強度を持った床面に必ず垂直に設置してください。 故障の原因になります。
	給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。 漏水の原因になります。
	満水にしてから通電してください。 故障の原因になります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤作動や故障の原因になります。
	定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。 万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。
	水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 タンクや配管が破裂して漏水の原因や、やけどのおそれがあります。
	長期間使用しない場合は、タンクの水を抜いてください。 凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。
	排水口は排水管に直接つながないで間接排水としてください。 汚水が逆流した場合、タンク内が不衛生な状態になり健康を害するおそれがあります。
	定期的にタンク内部を清掃してください。 水質が変化して、健康を害するおそれがあります。
点検する際は、十分にお湯を冷ましてから点検を行ってください。 やけどのおそれがあります。	

共通項目

安全上のご注意 / ES-DWUBシリーズについて

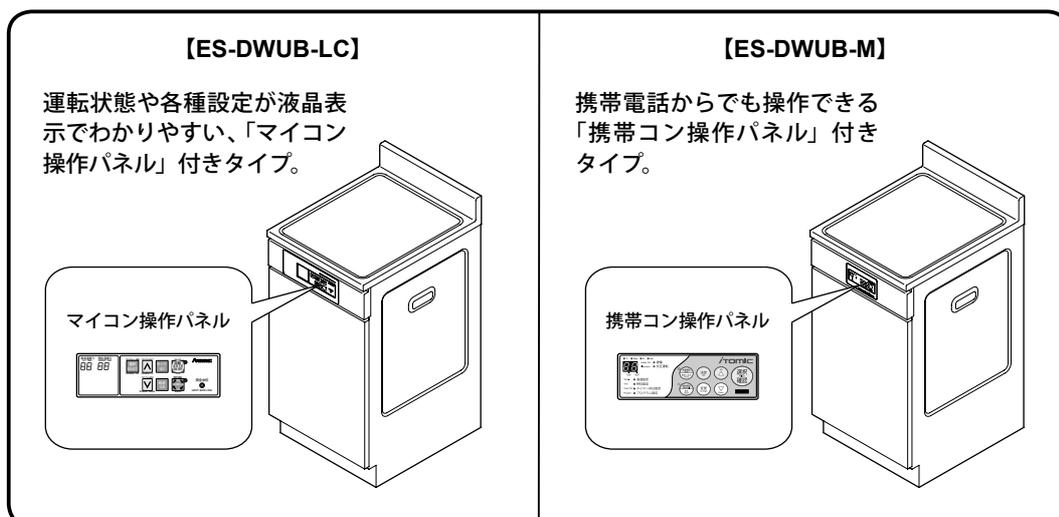
⚠️ 注意	
	本体より低い場所への給湯、および給湯加圧ポンプのご使用はやめてください。 タンクや配管が破裂して漏水の原因や、やけどするおそれがあります。
	逃し管の先をふさがないでください。 タンクや配管が破裂して漏水の原因や、やけどするおそれがあります。
	タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、破損の原因になります。
	給湯温度が 60℃以下の場合、飲用にしないでください。 健康を害するおそれがあります。
	水質基準に適合した水道水以外は使用しないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因になります。水道水に添加物を混ぜることも同様の危険があります。

ES-DWUBシリーズについて

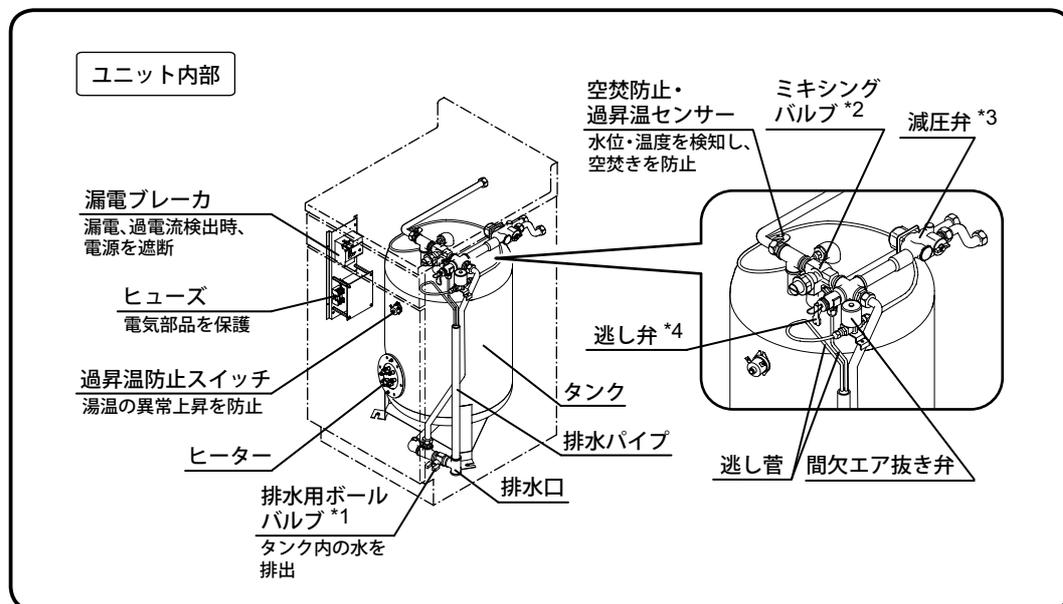
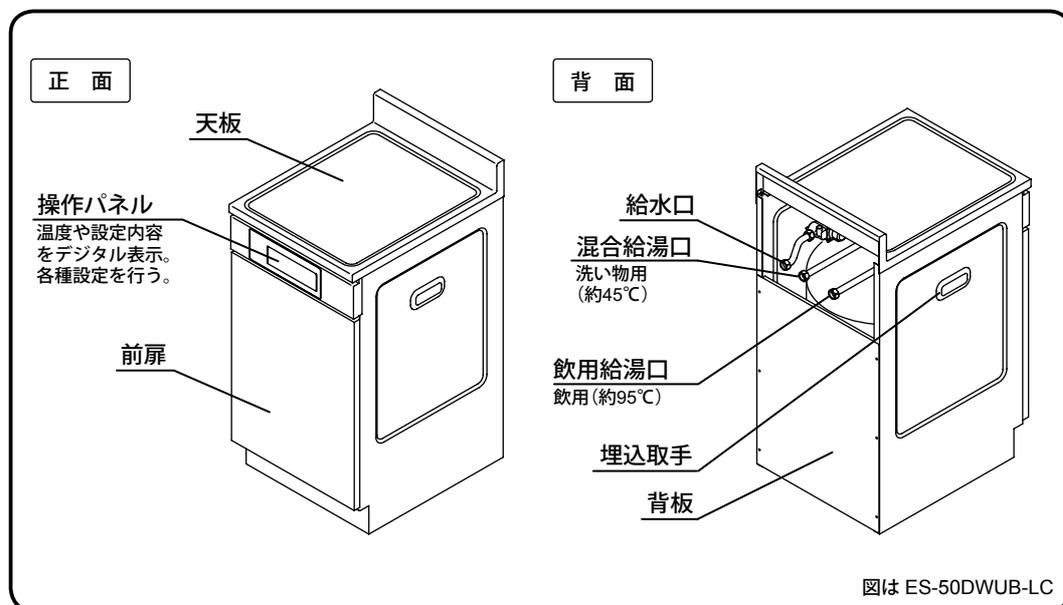
本シリーズは、飲用と洗い物用の給湯器 2 台分の機能が一台にまとまった、調理台付きの「調理台型給湯ユニット」です。

運転や湯温などのコントロールは、マイコンを搭載した操作パネルを使って簡単に行うことができます。操作パネルには、現在温度や設定内容が表示され、故障診断機能やタイマー機能が備わっています。

操作パネルを手動で操作する機種(型番 ES-DWUB-LC)と、手動のほかに携帯電話からでも操作できる機能が追加された「携帯コン」付き機種(型番 ES-DWUB-M)があります。



各部名称と機能



*1……ES-80DWUBはユニット内部のタンク右側下部にあります。

*2……熱湯と水を混合し、洗い物用に湯温を調整します(約45℃)。出荷時は、混合した湯の温度が45℃になるよう設定してあります。

*3……タンク内に供給される水の圧力(80kPa)を調整します。逆止機能を持ち、給水一次側(給湯器に水が供給される側の配管)への水の逆流を防止します。

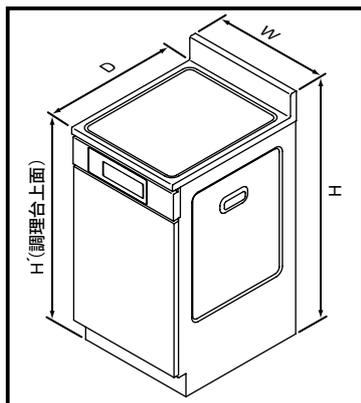
*4……圧力上昇に伴い自動で開閉し、タンク内の圧力を最高使用圧力(100kPa)以下に保ちます。

共通項目

ES-DWUBシリーズについて

仕様一覧

項目		型番		ES-50DWUB-LC ES-50DWUB-M	ES-80DWUB-LC ES-80DWUB-M
定 格	電 圧	単相 200V			
	消費電力	2.1kW / 3.0kW			
貯湯量		50 リットル		80 リットル	
沸き上がり温度		ES-DWUB-LC: 約 40 ~ 95℃ ES-DWUB-M: 約 60 ~ 95℃			
沸 き 上 が り 時 間 ^{*1}	2.1kW	133分		213分	
	3.0kW	94分		149分	
給湯方式		先止式			
給水圧力		0.1 ~ 0.5MPa			
最高使用圧力		0.1MPa以下			
給水・給湯接続口径		G1/2 (15A)			
排水接続口径		Rc1/2 (15A)			
使用水温		0 (但し凍結のないこと) ~ 40℃以下			
霧田気温度		0 (但し凍結のないこと) ~ 40℃			
湿度		10 ~ 60%以下(但し結露のないこと)			
据付方式		床置き式			
据付寸法W×D×H (mm)		H' = 800	H' = 850	H' = 800	H' = 850
		450 × 550 × 890	450 × 550 × 940	600 × 550 × 890	600 × 550 × 940
ユニット質量		38kg		43kg	
運転質量		約 88kg		約 123kg	
使用人数の目安 ^{*2}		400人		640人	
主 要 部 品	ヒーター	シーズヒーター (SUS316L)			
	減圧弁	設定圧力 80kPa			
	逃し弁	設定圧力 97kPa			
	間欠エア抜き弁	定時開放			
	自動混合弁	設定温度 約 30 ~ 50℃			
安 全 装 置	漏電検出装置	30mA・0.1秒			
	過昇温防止	バイメタル式			
	空焚防止	電子制御式			
	温度センサー 異常検出	電子制御式			



*1… 水温15℃、沸き上がり温度95℃で算出。(80℃昇温)

*2… 飲用可能温度を80℃とし、100cc/杯として算出。

※本シリーズの外観や仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

工事要領

正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

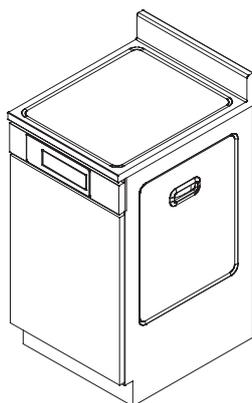
施工前にご確認ください

施工前にご確認ください

1. 製品の確認

【本体および付属品】

ES-DWUB-LC 本体



各型番の違いはP.5参照→

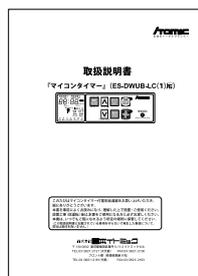
付属品…全型番共通のもの



工事要領・取扱説明書×1
(この冊子です。当冊子は工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。)

付属品…型番により異なるもの

【マイコン付き機種】 ES-DWUB-LCの場合



マイコン取扱説明書×1
(工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。)

【携帯コン付き機種】 ES-DWUB-Mの場合



携帯コン取扱説明書×1
(工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。)

【お客様にてご手配ください】

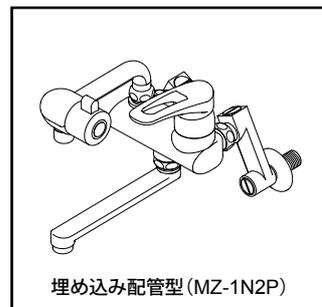
お客様手配品 (必ず事前にご用意ください。)

- ① 熱湯栓、混合水栓 …… 出湯するために熱湯専用水栓と混合水栓がそれぞれ必要です。
- ② 止水栓 …… 排水やメンテナンス時に給水を止めるため必要です。
- ③ 漏電ブレーカ …… 万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA・0.1秒)

上記は必ずお客様にてご用意ください。

関連商品 (弊社にてお求めいただけます。)

- ④まぜまぜP ES-DWシリーズ専用の、ワンレバーで簡単に水とお湯を混合できる熱湯口付き混合水栓です。埋め込み配管型 (MZ-1N2P) と立ち上がり配管型 (MZ-3N2P) があります。
- ⑤熱湯栓、混合水栓 . . . 熱湯専用に設計された熱湯栓 (NT-1) と、混合水栓 (KG-2) があります。

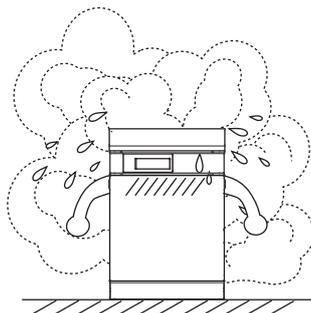


2. 設置場所の確認

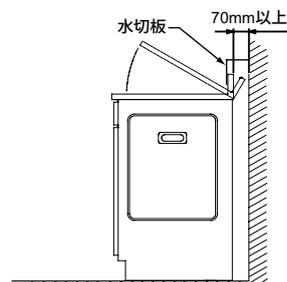
チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
凍結対策	冬季にも凍結しない場所ですか？ 冬季に凍結する場所では、給湯以外の配管に保温工事が必要になります。	<input type="checkbox"/>
メンテナンススペース	水切板を取り付ける場合、天板を取り外せるようにしてください。 天板が取り外せないと、修理やメンテナンスの際に交換することができません。	<input type="checkbox"/>
設置場所	機器の設置場所は雨水のかからない場所ですか？ 雨水が機器内部へ浸入すると、感電したり機器が故障する原因になるため非常に危険です。本体は必ず屋内へ設置してください。	<input type="checkbox"/>
	設置場所は湿気の多い所 (特に浴室内) ではありませんか？ 結露が生じる場所で使用すると感電するおそれがあります。また、湿気は電気部品が早期に故障する原因にもなります。	<input type="checkbox"/>
取付床面	水平な床面ですか？ 水平でない場合はお取り付けいただくことができません。	<input type="checkbox"/>
	運転質量に耐えられる床面ですか？ 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	<input type="checkbox"/>
電源の有無	電源が引き込める位置にありますか？ ない場合は取り付けや増設が必要です。	<input type="checkbox"/>
給水圧力	給水圧力は0.1～0.5MPaの間になっていますか？ 給湯器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。	<input type="checkbox"/>

設置場所は屋内の湿気の少ない場所を選んでください。



水切板を取り付ける場合は、天板を上方向に取り外せるよう、本体と壁の間をあけてください。



施工する

1. 設置工事

⚠ 警告	
⊘	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
⊘	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
⊘	湿気が多い場所や浴室には、製品を設置しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると、故障や感電の原因となります。

⚠ 注意	
!	給湯器の運転質量に十分耐えられる強度を持った床面に必ず設置してください。 機器の転倒などによる、ケガや故障のおそれがあります。
!	床面に防水・排水処置を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。

ES-DWUB シリーズの離隔距離

この給湯器は「消防法設置基準」に基づく試験基準に適合しております。建築物の可燃物等からの離隔距離は、表に掲げる値以上の距離を保ってください。

注) 水切板を取り付ける場合は、天板を上方向に取り外せるよう、本体と壁の間を70mm以上あけてください。

消防法 基準適合 組込形	
場所	離隔距離 (cm)
上方	0
左方	0
右方	0
前方	0
後方	0
下方	0

◆標準配管図 (単位: mm)

【正面】

【背面】

★排水用ボールバルブ: 50%タイプは図のようにタンク正面に、80%はタンク右側についています。

【寸法】 単位: mm、()内は調理台上面までの高さ。A～Dは近似値になります。

型番	記号	H	(A)	(B)	(C)	(D)	型番	記号	H	(A)	(B)	(C)	(D)
ES-50DWUB-LCおよび-M (H800)		800			200	100	ES-80DWUB-LCおよび-M (H800)		800	45	50	200	165
ES-50DWUB-LCおよび-M (H850)		850	65	100	250	100	ES-80DWUB-LCおよび-M (H850)		850			250	

2. 配管工事

 注意	
	<p>規定の給水圧力にてご使用ください。 誤作動や故障の原因となります。</p>
	<p>給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。 漏水の原因になります。</p>
	<p>排水口は排水管に直接つながないで間接排水としてください。 汚水が逆流した場合、タンク内が不衛生な状態になり健康を害するおそれがあります。</p>
	<p>水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 タンクや配管が破裂して漏水の原因や、やけどするおそれがあります。</p>
	<p>本体より低い場所への給湯、および給湯加圧ポンプのご使用はやめてください。 タンクや配管が破裂して漏水の原因や、やけどするおそれがあります。</p>
	<p>逃し管の先をふさがないでください。 タンクや配管が破裂して漏水の原因や、やけどするおそれがあります。</p>

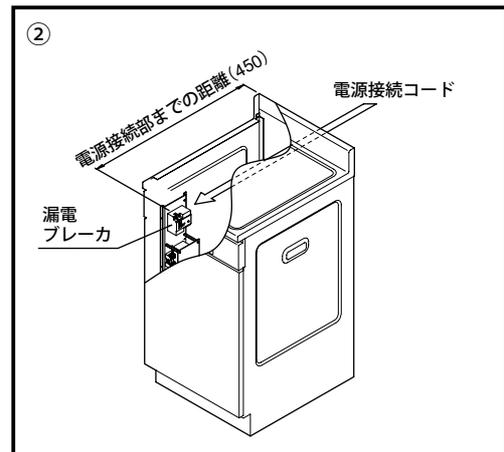
お願い (→ P.11『標準配管図』参照)	
<p>本製品は先止め式の給湯器なので、通電中に膨張水が排出されます。排水口の先は排水処理を施してください。プラグなどでふさがないでください。</p>	
<p>排水口空間は50mm以上とってください。</p>	
<p>給水配管の一次側(給湯器に水が供給される側)に止水栓(給水バルブ)を取り付けてください。</p>	
<p>止水栓(給水バルブ)は本体に近い位置に取り付けてください。</p>	

3. 電気工事

⚠ 警告	
	アース (D種接地) 工事を必ず行ってください。 アース工事がされないと機器の故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
	電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、必ず動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電のときに感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の±10%以内でお使いください。 火災の原因になります。

お願い	
他の電力負荷が無くなったとき、または夜間に、電圧が高くなることがありますので、電圧は定格電圧の±10%以内かどうか測定してください。	

- ① 電源一次側にお客様手配品の漏電ブレーカを取り付け、D種接地工事を行ってください。
- ② 電源コードを本体後部より引き込み、本体内部の漏電ブレーカに接続してください。



4. 施工後の確認

次のチェック内容を点検してください。

チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
設置工事	給湯器にがたつきがないこと	<input type="checkbox"/>
	各配管、継手から漏水していないこと	<input type="checkbox"/>
配管工事	給水管や給湯管の接続部分にゆるみがないこと	<input type="checkbox"/>
	外部の漏電ブレーカが正しく作動していること	<input type="checkbox"/>
電気工事	D種接地工事を正しく行っていること	<input type="checkbox"/>
	定格電圧の±10%以内であること	<input type="checkbox"/>

試運転を行う

⚠警告	
⊘	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
⊘	濡れた手で操作しないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は配管部分が高温になっていますので、手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。

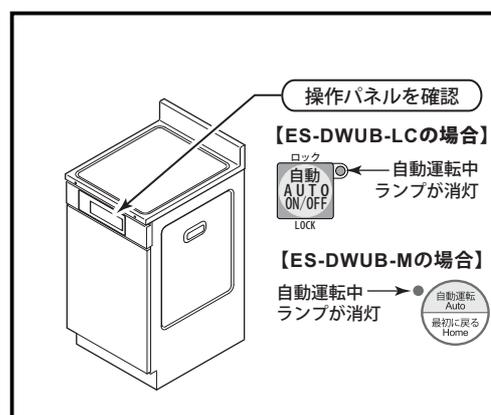
⚠注意	
!	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因になります。
	タンクを満水にしてから通电してください。 故障の原因となります。
	給水温度は規定の範囲内としてください。 故障や漏水の原因となります。
⊘	給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、破損の原因になります。
	水質基準に適合した水道水以外は使用しないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。水道水に添加物を混ぜることも同様の危険があります。

お願い	
<p>施工後に試運転を行ってください。機種により操作方法が異なる場合がありますので、型番を確認して該当する型番の説明をご覧ください。操作パネルの各部名称や使用方法については、製品に別途付属の取扱説明書をご参照ください。</p>	

1. 給湯器に給水する

① 操作パネルの自動運転スイッチがOFF になっていることを確認してください。

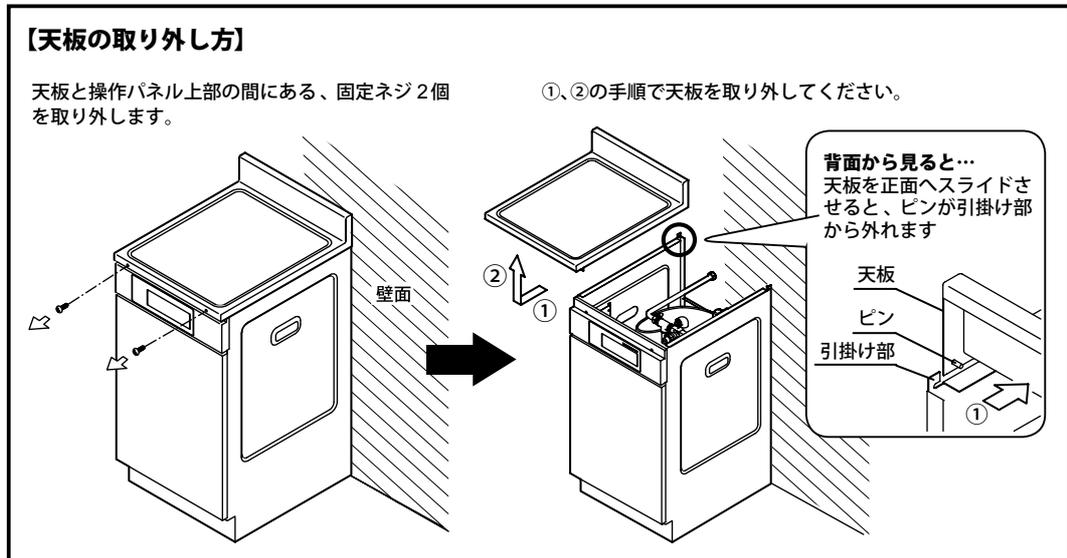
- 自動運転スイッチのすぐ横にある自動運転中ランプが消灯している状態です。



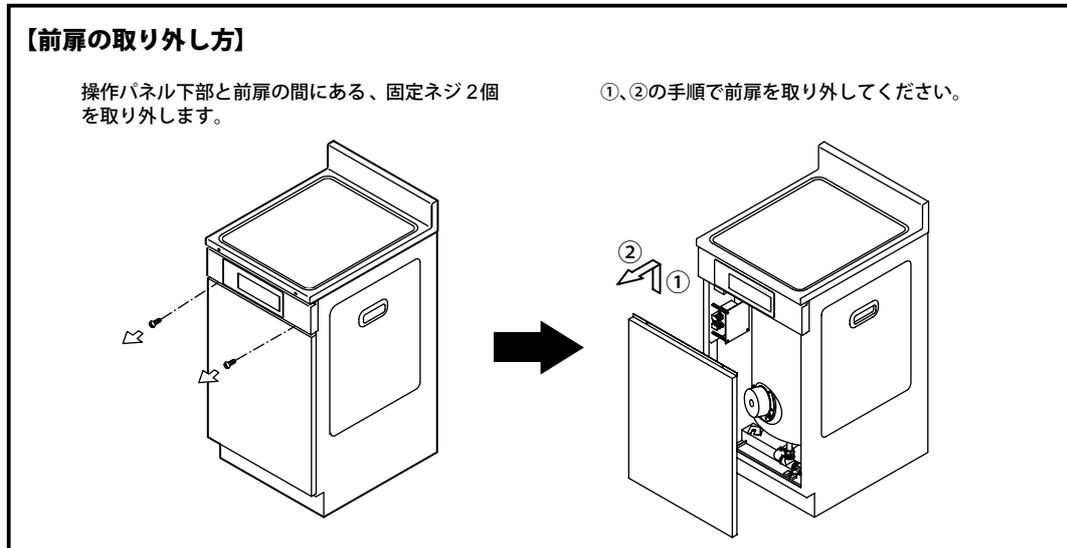
工事要領

試運転を行う

- ② 調理台の天板を取り外してください。

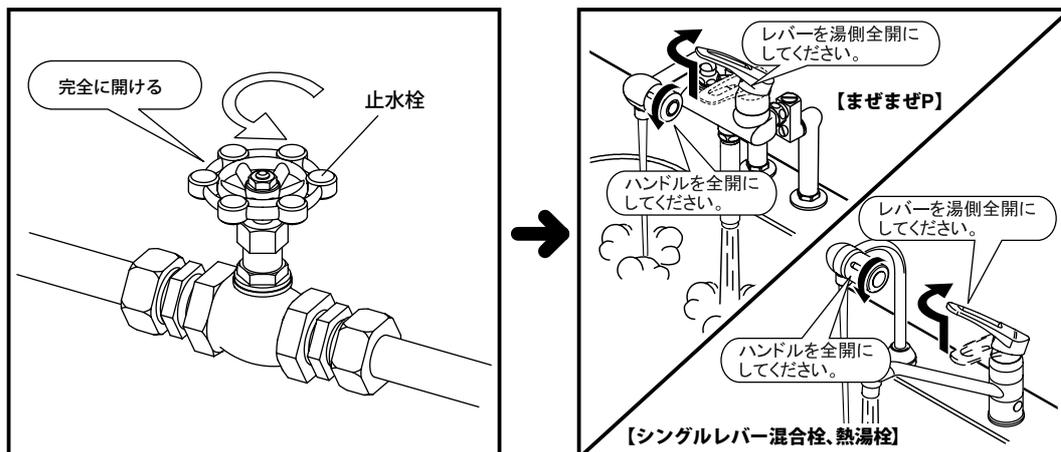


- ③ 前扉を取り外してください。



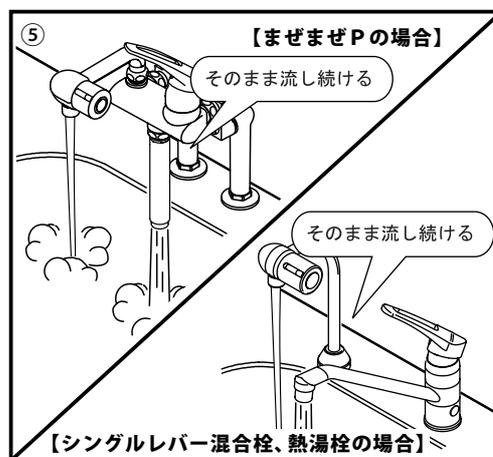
- ④ 止水栓を全開にしてから混合栓・熱湯栓の湯側を全開にし、水の量が安定するまで流し続けます。
 (給湯器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。)

空気を含まない安定した水が混合水栓から出るまで、タンク内に給水してください。



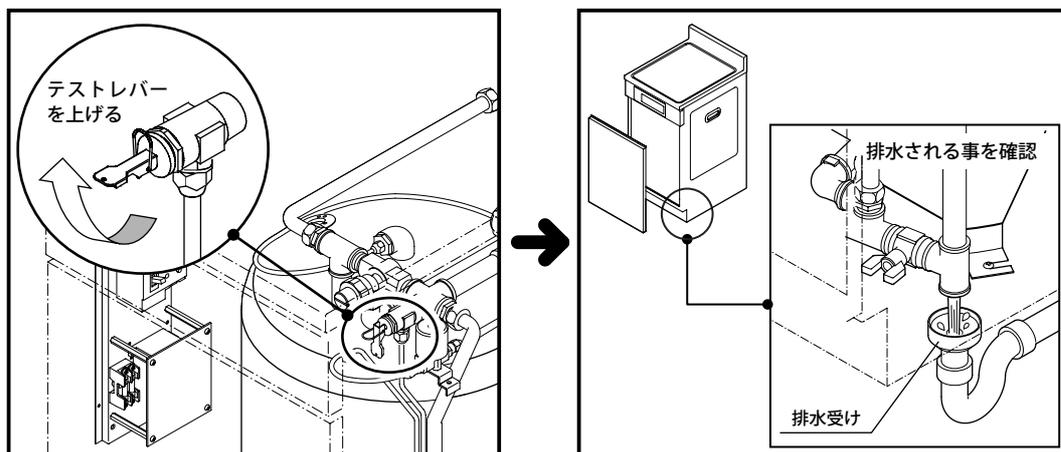
注) 図の各部品は一例で、お客様のお手配になったものにより形状が異なります。図と異なる部品の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、部品の取扱説明書をご覧ください。

- ⑤ タンク内が満水になり水の量が安定したら、配管内の汚れを流し出すため、水をそのまま流し続けてください。



- ⑥ 混合栓・熱湯栓を閉めてから、それぞれの配管接続部から水が漏れていないか確認してください。

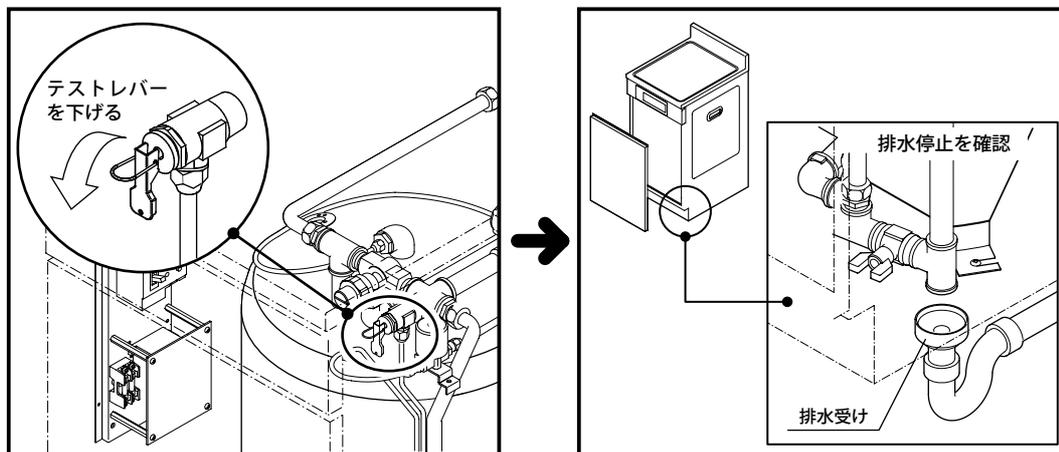
- ⑦ 逃し弁のテストレバーを上げて、排水口からの通水を確認してください。



工事要領

試運転を行う

- ⑧ 通水が確認できたら、逃し弁のテストレバーを下げて水が止まることを確認してください。



お願い

テストレバーは必ず元に戻してください。テストレバーを上げたままにすると、逃し弁から水が排出され続け、設定温度に沸かし上げることができません。

- ⑨ 天板と前扉を取り付けてください。

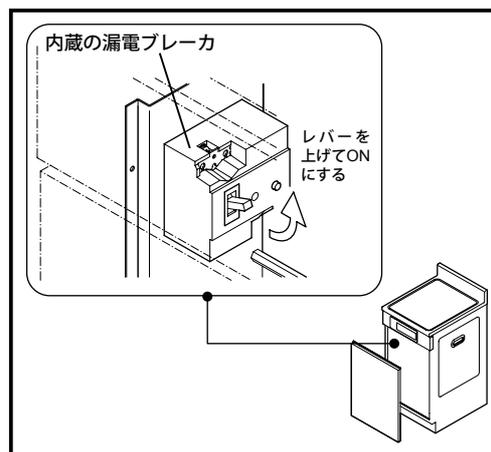
2. 試運転を行う

警告

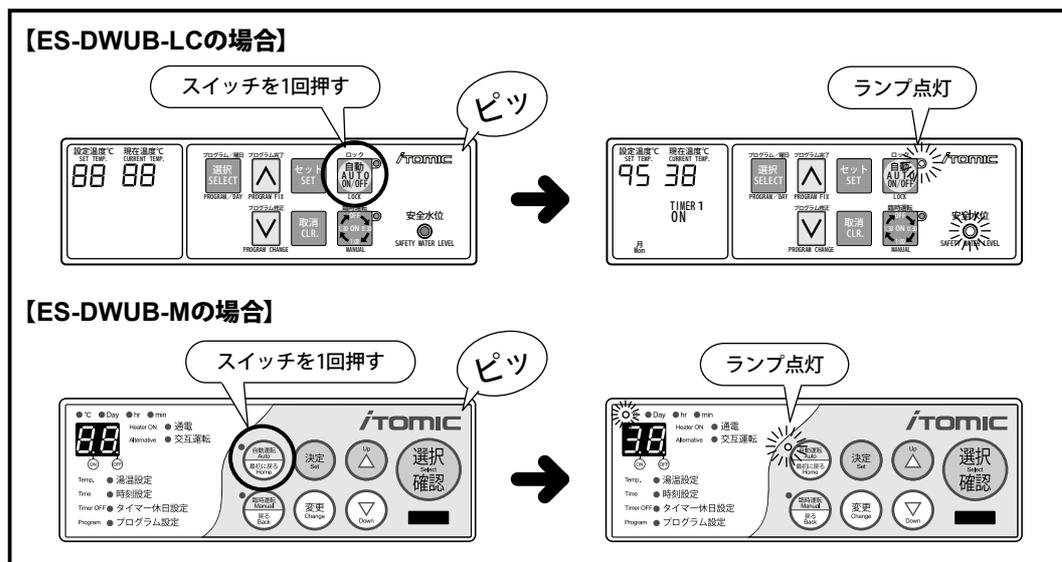


濡れた手で操作しないでください。
感電のおそれがあります。

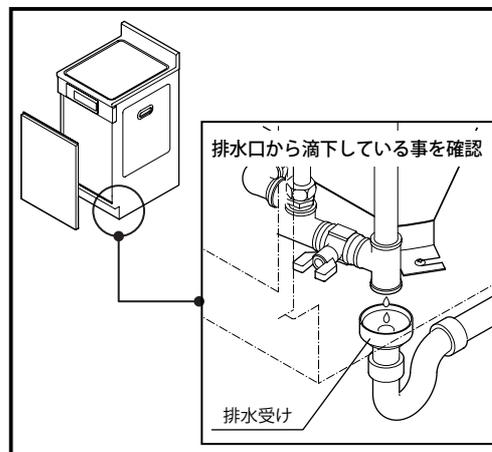
- ① 電源を供給するため、外部に取り付けたお客様手配品の漏電ブレーカをONにしてください。
- ② 調理台の前扉を外して本体内蔵の漏電ブレーカをONにして電源を入れ、前扉を取り付けてください。(前扉の外し方→P.15『前扉の取り外し方』参照。)



- ③ 操作パネルの自動運転スイッチを1回押してください。「ピッ」という操作音とともに、自動運転を開始します。運転を開始すると自動運転スイッチのすぐ横にある自動運転中ランプが点灯します。(沸かし上げ時間→P.7『沸き上がり時間』参照。)

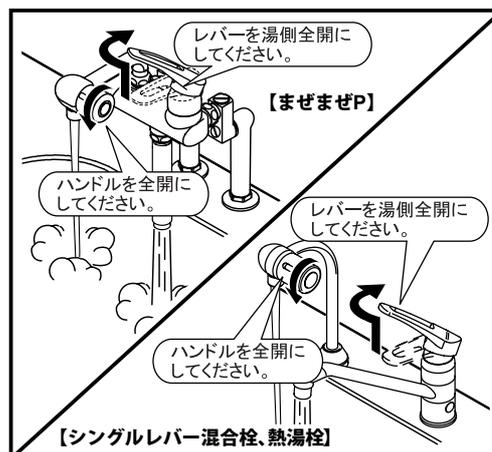


- ④ 沸かし上げ中に再び前扉を取り外し、タンクの下の排水口から水が滴下しているかどうか確認してください。確認後は前扉を取り付けてください。(前扉の外し方→P.15『前扉の取り外し方』参照。)



- ⑤ お湯が沸き上がったら、混合栓・熱湯栓の湯側を開いてお湯が出れば、運転は正常です。

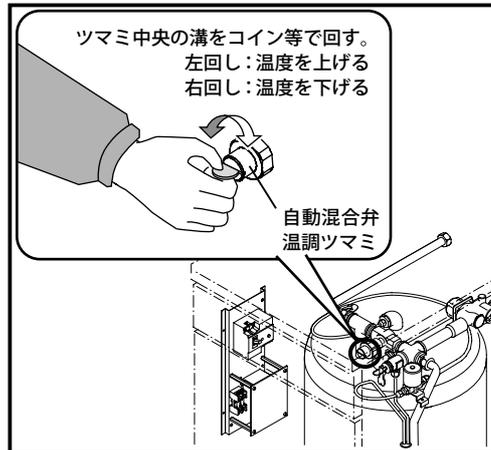
注意 試運転時にお湯の出を確認する際は、お湯に触れないでください。やけどのおそれがあります。



3. 混合給湯口からの湯温を調節する

混合水栓の湯側から出るお湯が熱い、もしくはぬるい場合は、天板を取り外して本体内部の自動混合弁温調ツマミをコイン等で回して調整してください。(天板の取り外し方→P.15『天板の取り外し方』参照。)

混合給湯口から出るお湯の温度を約 30 ～ 50℃ の範囲で変えることができます。



4. 試運転後の確認

次のチェック内容を点検してください。

チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
漏水	各配管、継手から漏水していないこと	<input type="checkbox"/>
電圧	定格電圧の±10%以内であること	<input type="checkbox"/>
ヒーター絶縁抵抗	1MΩ以上あること	<input type="checkbox"/>
ストレーナー	ストレーナーの中にゴミ詰まりがないこと (ストレーナーは減圧弁に内蔵されています。)	<input type="checkbox"/>
逃し弁	テストレバーが下がっていること (P.14『給湯器に給水する』を参照。)	<input type="checkbox"/>
給湯	混合水栓の湯側を開くとお湯が出ること	<input type="checkbox"/>

5. 試運転後に必ず行ってください

以上で、施工および試運転は終了です。

本製品をご使用になられる方、または設備管理者様に対し、次の事を必ず行ってください。

- 施工作业や試運転について、簡単にご報告ください。
- 逃し弁のテストレバーが下がっている状態を確認した上で、お客様にその旨をご報告ください。(→ P.22『使用前の準備と確認』を参照。)
- お客様が止水栓(給水バルブ)を取り扱う場合がありますので、止水栓(給水バルブ)の取り付け位置をお伝えください。(→ P.22『使用前の準備と確認』を参照。)
- 本書を含む取扱説明書はすべて、本製品をご使用になられる方、または設備管理者様にお渡しください。

取扱説明

正しく安全にお使いいただくため、必ずお読みください。

使用方法

 警告	
	<p>本体内部を点検する場合には、必ず電源を切ってください。 感電のおそれがあります。</p>
	<p>本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。</p> <p>設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉・天板を開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。</p>
	<p>絶対に改造はしないでください。 火災や感電、やけど、漏水、ケガの原因となります。</p>
	<p>給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。</p> <p>逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。</p> <p>排水時には熱湯が出る場合がありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。</p>

 注意	
	<p>規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因になります。</p> <p>満水にしてから通電してください。 故障の原因になります。</p> <p>定期的にタンク内部を清掃してください。 水質が変化して、健康を害するおそれがあります。</p> <p>給水温度は規定の範囲内としてください。 故障や漏水の原因となります。</p> <p>給湯温度が 60℃以下の場合は、飲用にしないでください。 健康を害するおそれがあります。</p> <p>長期間使用しない場合は、タンクの水を抜いてください。 凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。</p> <p>定期的に逃し弁の動作を確認してください。 万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。</p>
	<p>給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、破損の原因になります。</p> <p>水質基準に適合した水道水以外は使用しないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。水道水に添加物を混ぜることも同様の危険があります。</p> <p>タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。</p>
	<p>タンクの排水時には熱湯が出る場合がありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。</p>

1. 使用前の準備と確認

ご使用前に次の事をご確認ください。

チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物がないですか？	<input type="checkbox"/>
	本体の上には物などを載せていませんか？	<input type="checkbox"/>
	逃し弁が吹き出ていませんか？	<input type="checkbox"/>
	止水栓の取り付け位置が確認できますか？	<input type="checkbox"/>

2. 運転する

本製品は自動運転スイッチを押すと工場出荷時に設定された型式によって異なる内容の「おすすめプログラム」に従って自動でお湯を沸かします。(右表参照)

【おすすめプログラム設定内容】

型式	設定番号	運転曜日	運転時間	
			開始	停止
ES-DWUB-LC	初期設定	月～土	6:30	18:30
ES-DWUB-M	1 (初期設定)	月～金	6:30	18:30
	2		6:00	18:00
	3		7:00	19:00
	4		8:00	20:00
	5		0:00	23:45※

※は24時間連続で運転する設定。



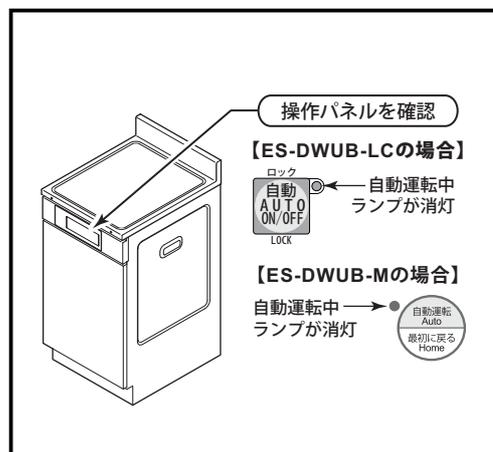
本書では基本的な使用方法のみを説明しておりますので、「おすすめプログラム」および操作パネルの詳しい操作方法は製品に付属のマイコン取扱説明書(左)または携帯コン取扱説明書(右)をご参照ください。



① 操作パネルの自動運転スイッチがOFFになっていることを確認してください。

- 自動運転スイッチのすぐ横にある自動運転中ランプが消灯している状態です。

※ ONになっている場合は、自動運転スイッチを3秒以上押ししてOFFにしてください。

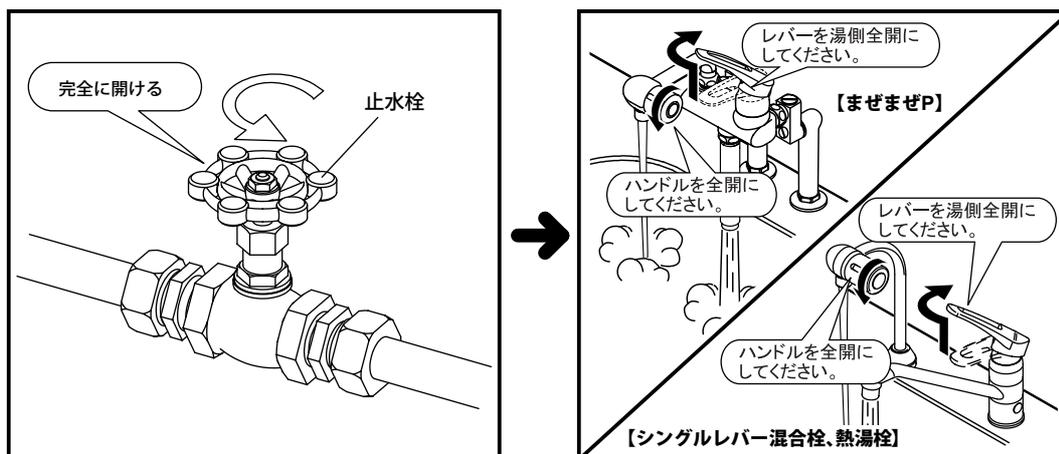


取扱説明

使用方法

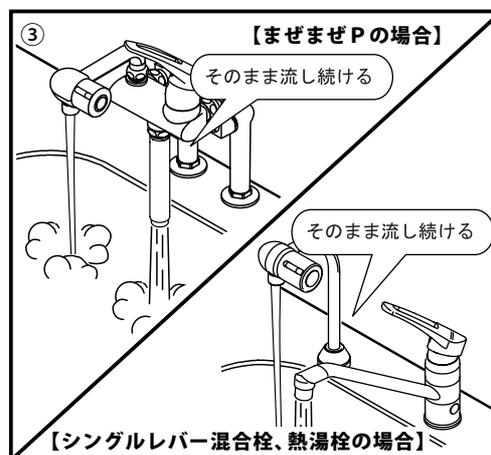
- ② 調理台の天板を取り外してください。(天板の外し方→P.15『天板の取り外し方』参照。)
- ③ 調理台の前扉を取り外してください。(前扉の外し方→P.15『前扉の取り外し方』参照。)
- ④ 止水栓を全開にしてから混合栓・熱湯栓の湯側を全開にし、水の量が安定するまで流し続けます。(給湯器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。)

空気を含まない安定した水が混合水栓から出るまで、タンク内に給水してください。

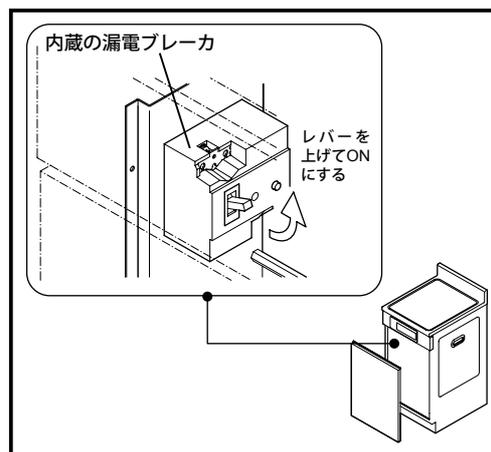


注) 図の各部品は一例で、お客様のお手配になったものにより形状が異なります。図と異なる部品の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、部品の取扱説明書をご覧ください。

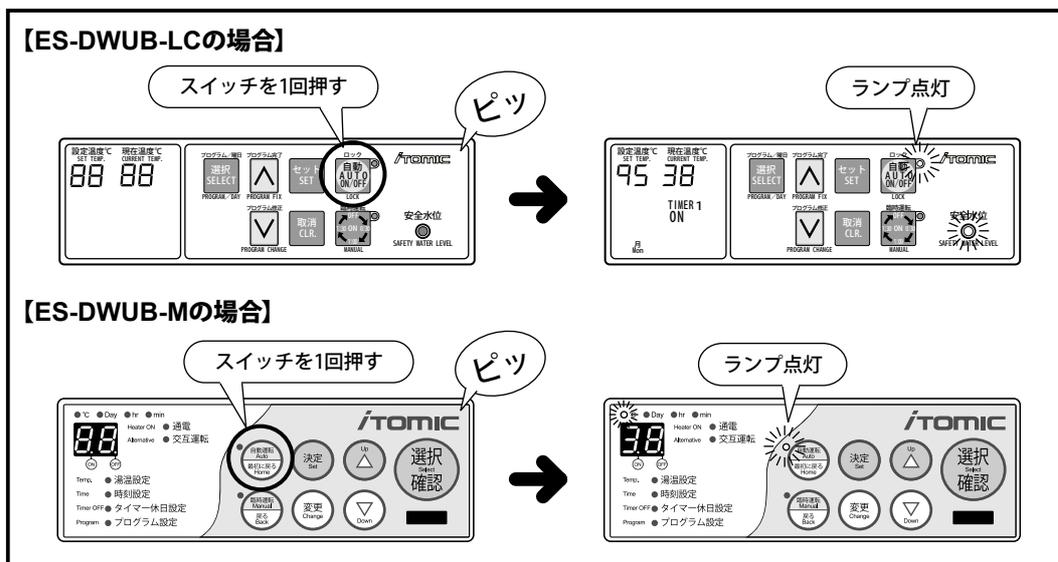
- ⑤ タンク内が満水になり水の量が安定したら、配管内の汚れを流し出すため、水をそのまましばらく流し続けてください。
- ⑥ 混合水栓を閉めてから、外部の漏電ブレーカをONにしてください。



- ⑦ 本体内蔵の漏電ブレーカをONにして電源を入れ、天板と前扉を取り付けてください。

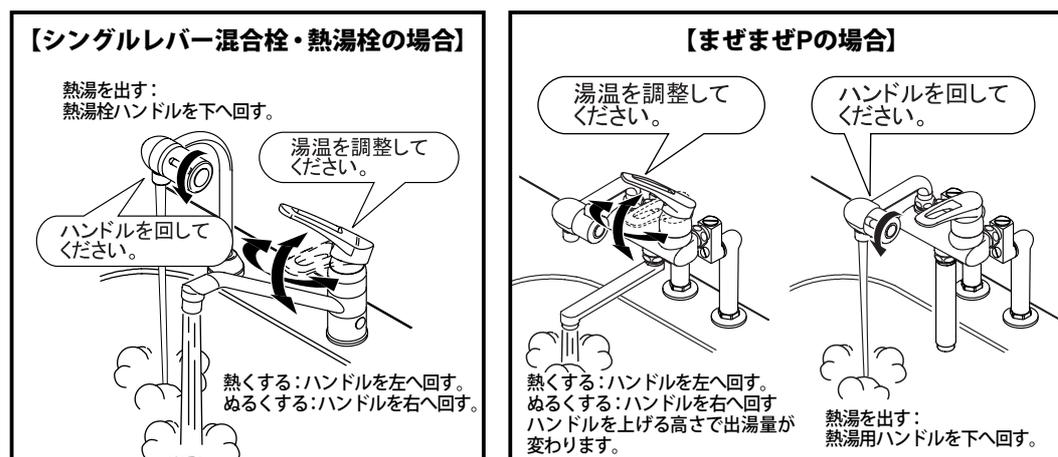


- ⑧ 操作パネルの自動運転スイッチを1回押してください。「ピッ」という操作音とともに、自動運転を開始します。運転を開始すると自動運転スイッチのすぐ横にある自動運転中ランプが点灯します。(沸かし上げ時間→P.7『沸き上がり時間』を参照。)



3. 出湯する

設定温度までお湯が沸き上がったら、混合栓または熱湯栓を開いて出湯してください。混合栓は湯温を調整しながらお使いください。(現在湯温は操作パネルにデジタル表示されています。)



注) 図は一例で、お客様のお手配になったものにより形状が異なります。図と異なる混合水栓または熱湯栓の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、水栓の取扱説明書をご覧ください。



混合給湯口から出るお湯の湯温の上限を調節するには？

※本体内部を操作しますので、販売店もしくはサービス店などの専門の技術者の方に作業をご依頼ください。

長期間使用しないときは(排水の方法)

警告	
	<p>逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。</p> <p>排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。</p>

注意	
	<p>長期間使用しない場合は、タンクの水を抜いてください。 凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。</p> <p>タンクを満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。</p>
	<p>タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 やけどしたり、配管の破損により漏水するおそれがあります。</p>

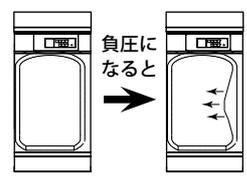
長期にわたって給湯器をご使用にならない場合には水質劣化を防ぐため、また、負圧事故によるタンクの破損を防ぐため、タンク内のお湯を必ず抜いてください。

ワンポイント

P

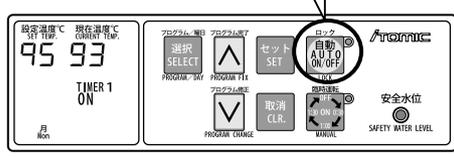
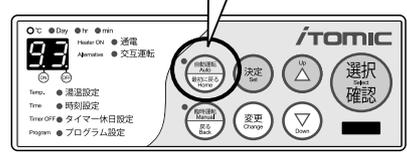
負圧とは？
タンク内の圧力が大気圧を下回った状態で、断水中や給水量が少ない状態で排水を行ったときに発生します。

負圧になるとタンク内の圧力が低くなり、右図のようにタンクがへこんで破損してしまいます。



負圧になると

- ① 自動運転スイッチを3秒以上押ししてOFFにしてください。自動運転を停止すると自動運転スイッチのすぐ横にある自動運転中ランプが消灯します。

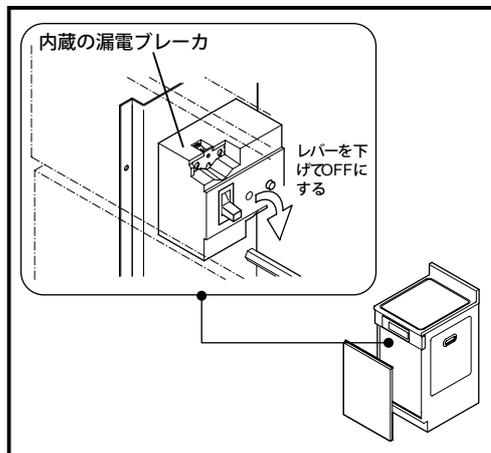
【ES-DWUB-LC】	【ES-DWUB-M】
<p>3秒以上押しして 自動運転をOFF</p> 	<p>3秒以上押しして 自動運転をOFF</p> 

- ② 調理台の天板を取り外してください。(天板の外し方→P.15『天板の取り外し方』参照。)
- ③ 調理台の前扉を取り外してください。(前扉の外し方→P.15『前扉の取り外し方』参照。)

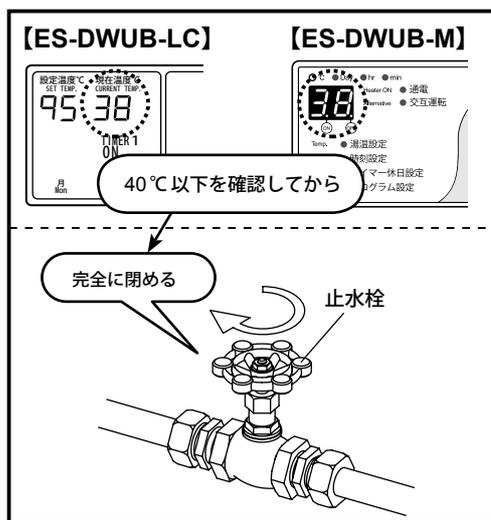
長期間使用しないときは(排水の方法)

④ 本体内蔵の漏電ブレーカをOFFにしてください。

⑤ 外部の電源ブレーカをOFFにしてください。

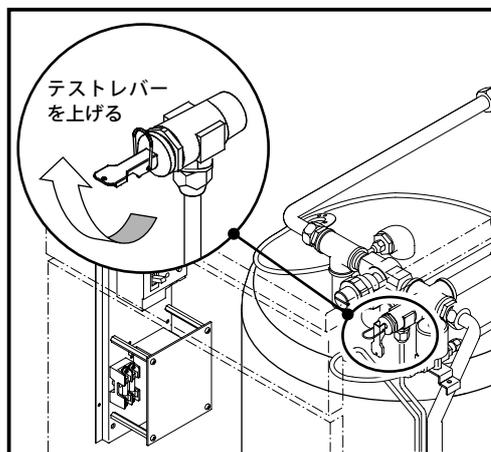


⑥ 操作パネルでお湯の現在温度が40℃以下になったことを必ず確認してから、止水栓(給水バルブ)を閉めてください。



⑦ 混合水栓の湯側を開けてください。(→ P.24『出湯する』を参照。)

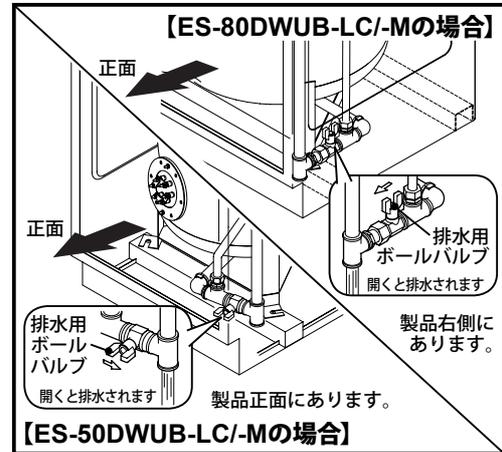
⑧ 本体内部にある逃し弁のテストレバーを上げてください。



取扱説明

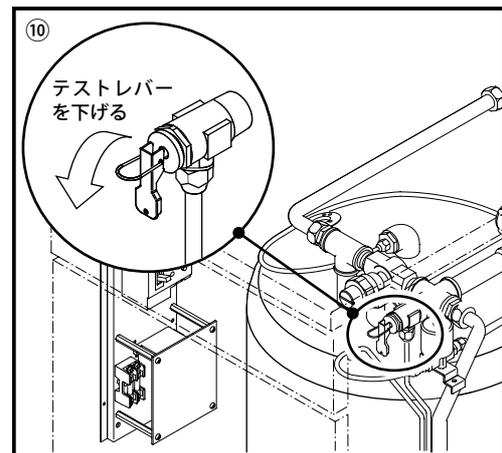
長期間使用しないときは(排水の方法)

- ⑨ 本体内部にある排水用ボールバルブを開いて排水してください。



- ⑩ 排水後は必ず排水用ボールバルブを閉めて、逃し弁のテストレバーを下げてください。
- ※ テストレバーは必ず元に戻してください。テストレバーを上げたままにすると、逃し弁から水が排出され続け、設定温度に沸かし上げることができません。

- ⑪ 最後に前扉と天板を取り付けてください。



お手入れの方法

 警告	
	本体内部を点検する場合には、必ず電源を切ってください。 感電のおそれがあります。
	設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉・天板を開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	排水時には熱湯が出る場合がありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

 注意	
	点検する際は、十分にお湯を冷ましてから点検を行ってください。 やけどのおそれがあります。
	給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、破損の原因になります。
	タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。

保守点検項目を実施の目安

点検項目	点検内容	点検の目安
電圧の測定	定格電圧の±10%の範囲で使用されていることを確認してください。過電圧はヒーター断線の原因になります。また、低電圧の場合は給湯器の能力が低下します。	1回/月
電流値の測定	定格電流の±10%の範囲で使用されていることを確認してください。給湯器の使用開始時と再使用時には特にご注意ください。	
ヒーター絶縁抵抗測定	絶縁抵抗計(500Vメガ)で測定し、1MΩ以上あることを確認してください。 ※破損するので操作回路には絶縁抵抗測定をしないでください。	
サーモスタットの動作点検	設定温度と実際の温度を比較して、温度調整が正常に行われていることを確認してください。	
漏電ブレーカの作動	内蔵の漏電ブレーカにあるテストボタンを押して、漏電ブレーカの作動を確認してください。確認後は漏電ブレーカのレバーを下げて一度OFFにしてから、ONにしてください。(テストボタン→P.17『試運転を行う』の図を参照。)	

取扱説明

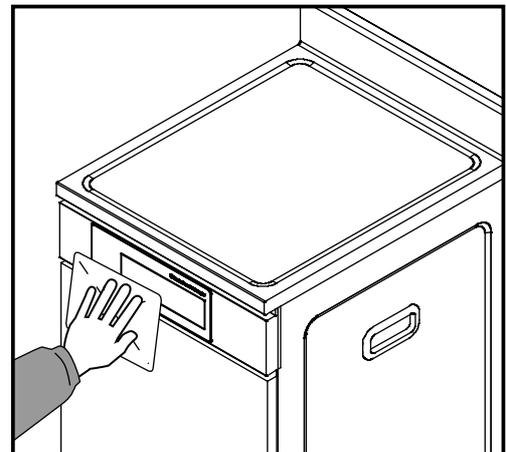
お手入れの方法

点検項目	点検内容	点検の目安
重要 逃し弁の動作点検	逃し弁のトラブルによる水漏れを防止するために、正常動作の確認は絶対必要です。排水口から常時水が出ていないか確認してください。 排水口から勢いよく水が出ている場合は修理・交換が必要です。	1回/月
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	
重要 間欠エア抜き弁の動作点検	本体内蔵の漏電ブレーカをOFFにして5秒以上待ってから、再度漏電ブレーカをONにしてください。このときに、間欠エア抜き弁が作動し、排水口から少量の湯水が排出されるか確認してください。 排水口から勢いよく水が出ている場合は修理・交換が必要です。	
タンク内の清掃	給水栓および給湯栓を全開にして、タンク内の水を強制的に入れ替えてください。	1回/年

注) 長期間で使用にならない場合は凍結によるタンクの破損や水質変化防止のため、P.25『長期間使用しないときは(排水の方法)』をご参照の上、タンク内の湯を排水してください。

外装のお手入れ

水に浸して固く絞った布で拭いてください。汚れがひどいときは薄い石鹸水に浸して固く絞った布で拭いてください。みがき粉や薬品は使用しないでください。



こんなときは

ブザーを止めるには・・・自動運転スイッチを3秒以上押し続けてください。

【ES-DWUB-LCの場合】

【ES-DWUB-Mの場合】

※携帯電話からも止めることができます。携帯コン取扱説明書をご参照ください。

給湯器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。

状 況	ご確認ください	対処方法
水もお湯も出ない、または出が悪い	断水ではありませんか？	水道局へお問い合わせください。断水中は使用できませんので、断水が終了するまでお待ちください。断水が終了したあと、お湯が濁っている場合には、濁りがなくなるまで出し続けてください。
	止水栓が閉じていませんか？	閉じている場合は開いてください。
	配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていますか？	ストレーナーの清掃を行ってください。 ⇒清掃に関しては、設備業者様へご相談ください。
	給水圧力が低すぎませんか？	給水圧力は0.1MPa以上必要です。 ⇒給水圧力が低い場合は管理技術者様へご相談ください。
	配管が凍結していませんか？	配管内が凍結するとお湯が出ません。凍結防止策を施してください。 ⇒凍結防止策については、設備業者様へご相談ください。
	給水量が不足していませんか？	止水栓が閉じていたら開いてください。 減圧弁およびストレーナーの清掃を定期的に行っていない場合、ゴミ等のつまりが考えられます。 ⇒清掃に関しては、設備業者様へご相談ください。
	混合水栓・熱湯栓がつまっていますか？	フィルターを清掃してください。 ⇒清掃に関しては、設備業者様へご相談ください。
湯が沸かない湯にならない	停電ではありませんか？	電気の復旧をお待ちください。
	漏電ブレーカがOFFになっていませんか？	漏電ブレーカ(一次側・内蔵の両方)をONにしてください。
	運転スイッチがOFFになっていませんか？	運転スイッチをONにしてください。
	タイマー運転の時間外ではありませんか？	必要に応じて臨時運転を行うか、タイマー設定を変更してください。
	ヒューズが切れていませんか？	ヒューズを取り替えてください。 ⇒設備業者様へご相談ください。
	電圧が誤っていませんか？	200Vの給湯器を100Vで使用することはできません。

取扱説明

こんなときは

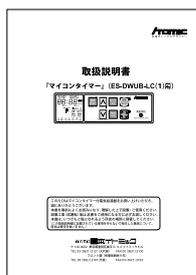
状 況	ご確認ください	対処方法
湯温が低い または 沸き上がり時 間が長すぎる	お湯を使用した直後ではありませんか？	瞬間式ではありませんので沸き上がるまで時間がかかります。
	逃し弁は正常ですか？湯が排水口から出続けていませんか？	通電時、排水口からポタポタ出るのは正常ですが常時吹き出しているのは故障です。ゴミがかんていたり減圧弁の故障も考えられます。正常に動作していない場合は、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。
	水温が低くありませんか？	秋から冬にかけて水温が急激に下がります。従って沸き上がり時間もかかります。
混合給湯口から非常に熱い湯が出る	給湯器のミキシングバルブが故障していませんか？	混合給湯口からの給湯温度は最高約 50℃です。それ以上の温度になっている場合は直ちに使用を中止し、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。
漏水している	どの部分からですか？	給水給湯接続部の場合は締め直してください。排水口接続部およびタンクから漏れている場合は直ちに使用を中止して止水栓を閉め、その旨を裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。
湯が臭い 湯が汚れて いる	新設後でタンク内に配管時の油や接着剤が残っていませんか？	新設時は工事の際切削油等が流入することがありますので、水をしばらく出し続けてください。
	長期間の休止後ではないですか？または断水直後ではないですか？	休止後は水の汚れや配管内の錆が出る場合があります。水栓から水を出し続けてタンク内の水を入れ替えてください。

その他の不具合およびエラーメッセージについて

その他の不具合および操作パネルに表示されているアラームについては、製品に付属のマイコンタイマーもしくは携帯コン取扱説明書をご参照ください。

それでも症状が改善されない場合は、P.32の故障状況シートをFAXいただくか、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。

ES-DWUB-LCに付属
【マイコンタイマー取扱説明書】



ES-DWUB-Mに付属
【携帯コン取扱説明書】



アフターサービス

消耗品の定期交換について

下記表記の部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や水漏れを防止するため定期的に交換してください。(下表参照) 交換(有償)・購入のご依頼は弊社フロント課もしくは裏表紙に記載の最寄りの地区販売会社にご依頼ください。

部品名	交換時期の目安	交換いただく理由
逃し弁	設置・交換日より5年	長期間で使用いただくことにより、経年劣化やスケール※による動作不良や水漏れを起こす可能性があります。水漏れが起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。(※水道水中のミネラル分が固着したものの。)
減圧弁		
間欠エア抜き弁		
ヒーター		
ミキシングバルブ		

上記以外でも使用状況によってパッキン類や電子部品交換が必要になる場合があります。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼になるときは、下記の故障状況シートをコピーして必要事項にご記入いただき、FAXにてご送付ください。FAXをお使いでない場合は記入事項をお電話にてご連絡ください。

型番等は本体に貼られている保証票に印刷されておりますので、故障状況シートへ転記してください。

保証票 GUARANTEE LABEL	
型番 Model	
製造番号 Serial No.	
	屋内用
電源・電力	
	最高使用圧力
株式会社 日本イトミック	MPB

(株)日本イトミック フロント課 FAX 03-3621-2163 (TEL 03-3621-2161)

※もしくは裏表紙に記載の最寄り地区販売会社へご連絡ください。

故障状況シート			
貴社名		ご担当者名	
ご住所			
T E L		F A X	
製品型番	ES-	DWUB-	
電源・電力		製造番号	
設置場所		保証期限	
状態			

取扱説明

MEMO

アドバイス&メンテナンス

データベース管理と専門技術で安心・快適のサポート。

お買い上げいただいた機器はすべてデータベースに登録。定期点検の時期などを的確に管理し、豊富な経験と優れた技術を兼ね備えた専門スタッフが責任をもってサポートいたします。イトミック製品を安心してお使いいただくとともに快適な温水環境をお届けするため、アドバイスとメンテナンスを心を込めて提供いたします。

アフターサービスのお問い合わせ

ITOMIC 全国共通ナビダイヤル
オー！イ ト ミック
TEL **0570-011039**
ご依頼時に必ず型番・製造番号をお知らせください。

メンテナンス契約

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社フロント課までご連絡ください。また、部品のご注文もフロント課で承っています。

TEL : 03-3621-2161(代)
FAX : 03-3621-2163

24時間サービス体制

夜間専用電話：東京 03-3621-2161

● ISO9001 認証取得 ● 経済産業省電気用品製造事業届出工場 ● 日本水道協会検査委託登録工場 ● 日本電気工業会正会員 ● 日本ボイラ協会会員 ● 建設業許可

株式会社 **日本イトミック**

営業本部

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル
TEL 03(3621)2121(大代表) FAX 03(3621)2130

フロント課(保守・部品・修理)

TEL 03(3621)2161(代表) FAX 03(3621)2163

本社工場

〒143-0002 東京都大田区城南島 4-6-8
TEL 03(3799)7311(代表) FAX 03(3799)7310

ホームページ <http://www.itomic.co.jp/>

《地区販売会社・営業所》

北海道地区	●(株)北海道イトミック	：〒063-0801 札幌市西区二十四軒 1条 5-1(ラポール 24 軒 2 号館)	TEL 011(615)6681(代)	FAX 011(615)7004
東北・新潟地区	●(株)東北イトミック	：〒981-3125 仙台市泉区みずほ台 4-3	TEL 022(773)6161(代)	FAX 022(773)6213
中部・北陸地区	●(株)中部イトミック	：〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-4-12(アレックスビル 3F)	TEL 052(222)2561(代)	FAX 052(222)2559
近畿地区	●(株)関西イトミック(株)	：〒541-0041 大阪市中央区北浜 3-7-12(東京建物大阪ビル)	TEL 06(6226)0800(代)	FAX 06(6226)0802
中国・四国地区	●(株)中国イトミック	：〒730-0051 広島市中区大手町 1-7-12(徳永ビル)	TEL 082(240)1361(代)	FAX 082(240)1363
九州・沖縄地区	●(株)九州イトミック	：〒812-0007 福岡市博多区東比恵 3-28-5	TEL 092(481)3911(代)	FAX 092(481)3930



この印刷物は再生紙と大豆油インクを使用しています。
'08.05-3-2-0.2 ①